

〔吾妻鏡 二十二〕建保四年正月十三日丁卯將軍家○源御參鶴岳八幡宮還御後御臺所○政令詣給
御車 女房出車二兩

〔薩戒記〕永享五年三月十七日辛未四條宰相隆夏送使者云賀茂祭女使出車可獻之由頭中將隆遠
所相催也車已下不所持仍雜色一人可召進之由返答了者予○藤原答云賀茂祭女使出車至牛童
車副者所相副也至雜色者未知其例奉行誤所相觸歟者六年四月十四日辛酉賀茂祭也○中出
車花山院大納言持忠四條宰相隆夏等從也雖依諒闇出車童女出衣如恒治承五年例也但不付扇
於簾童女用檜扇已上予今案也於北陣御覽之時不立榻是先例也

〔東武實錄 十五〕寛永三年九月六日行幸○中

姫宮御方御車○中

此次出車六兩

一車

右車前後左右ノ供奉牛飼二人二行左ニ榻ヲ持ツ白丁四人車副二人舍人二人布衣二人退紅一人六兩各
供奉同前

判官 騎馬左衛門尉大石昌弘

二車

騎馬左衛門尉大石正弘

右二兩ノ御供車中宮ノ女中十五人是ニ乗ル○下

出衣

〔雅亮裝束抄〕くるまのきぬをいだすこと
御くるまのきぬよりきぬをいだす事つねのごとし但しまたすだれをかみにおしかふことを
せでつまとそでとのあはひにおくべしものこしきびでぢずりのつまをすこしこしのうへに